

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275000097		
法人名	有限会社 たすけあい		
事業所名	グループホーム たすけあい		
所在地	千葉県香取市岩部1095-1		
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町村受理日	平成25年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成24年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設での食事は社長が日々愛情をこめて作っている野菜を一年を通し季節の野菜を取り入れ利用者様に提供している。季節を通し畑で採れた野菜や近所の農園より提供の食材を利用しジャムや漬物、切り干し大根やずいき等保存食作りも利用者さんとの年中行事になり昔を思い出しながら行いみなさん懐かしい話をしながら生き生きとした姿を見せて頂いています。職員が教えて頂くことも多く皆さんに指導されています。今年は利用者さんも入れ替えもあり、開設当初から入所されていた利用者さんを看取らせて頂いた事が職員にとっても大きな成果になったかと思えます。職員、御家族、主治医、看護師との連携を図り静かな最期を送って頂けました。ご家族からも評価を頂けたかなとお言葉を頂いた事が大きな成果で今後のターミナルケアへも職員の自信にも繋がりました。その事も職員の結束力にも繋がったかなと思ひ、新しい利用者さんも入り、より個別ケアの取り組みに力を入れて一人一人に満足して頂けるケアを目指し笑顔のある環境作りにも力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、「明るく寄り添える第二の我が家の生活を目差します」という理念の実践に於いて、コミュニケーションをよくとる事が大切と考えている。開設当初からの利用者を取看するという深い悲しみを乗り越え、多くの貴重な体験を得て職員の自信や結束力につなげる事ができたのも、利用者や家族、職員間、医師や看護師との十分なコミュニケーションと連携があつての事と考える。ホームを訪れると、利用者のいっせいの笑顔で迎えられ、暖かく明るい雰囲気を感じ取れる。周辺症状のある利用者も受け入れ、コミュニケーションをより多く重ねるケアすることで利用者の症状の緩和が得られるという成果も得られている。利用者アンケート調査結果は高い満足度で回答されており、職員への多くの感謝の言葉や評価で満ちている。ケアはもちろん食事や行事についても、とにかく相互のコミュニケーションをよくとることを心掛け、利用者の笑顔に繋げていくことで、職員のモチベーションを高めていくという取組は高く評価される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を掲示し意識付けし定期的に勉強会を通し実践に繋げている。	日々のケアは、四つの理念、五つの職員の心得に基づいて提供されている。利用者や家族とコミュニケーションをよく取ることで、職員だけのケアでなく家族と協力しあって支援していくことを大切に、笑顔のあるグループホーム作りに励んでいる。	家族と協力しあってケアするうえで、家族にも理念を理解頂く事の大切さを感じ、この一年間理念の共有化に取り組んできている。今後もこの取り組みを継続し展開されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者の自宅もあり定期的にボランティアや利用者様との散歩での交流や地域の会議や勉強会を通して交流を図っている。	音楽療法やフラダンスのボランティア団体、子供会の訪問を受け入れる事や、マッサージ専門家による個別リハビリ等、地域の方々の定期的な交流を支援している。また、地域の他事業所との交流なども企画し、利用者が地域とつながり続けられるよう配慮している。	高齢化が進み、外出機会が少なくなつて地域の方々との交流がやや困難となりつつある利用者が増えてきている。地域とつながりながら暮らし続けられるよう、施設内での継続的で多彩な企画を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの季刊誌を配布したり作った野菜を配ったり、ボランティアの受け入れや地域行事への参加を通しながら取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議の参加を多くしてもらうことでより家族との繋がりを密にしていける事や評価表を配布し意見を求めその結果を話し合いサービスに繋げている。	運営推進会議には、毎回市の高齢者福祉課職員や地域民生委員、利用者・家族が参加し、看取りや最近の様子、研修等について活発な意見の交換がなされ、サービス向上に活かされている。	運営推進会議は、今年度3回実施されている。会議が施設運営のモニター役として機能し、サービスの向上につながるよう、年6回の開催回数を確保されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な会議への参加を積極的に行い日頃の相談などでも連絡を取ることで連携を図っている。	市の高齢者福祉課とは相談や運営推進会議への出席を依頼するなど連携を密にしている。市が主催する地域密着型の連絡会に定期的に出席し、情報交換や協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会での意識付けや研修への参加を通し拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロという方針を貫いている。外部研修に積極的に参加させ、勉強会でフィードバックさせることで共有化を図っている。新任には毎月の勉強会や個別のケアで、正しい理解が出来るよう指導を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会での意識付けや研修への参加会議での話し合いを通し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的な勉強会や研修への参加を通し必要時には話し合いの機会を持つことで取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にはもちろんその都度必要なことは早めに報告、説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議の参加の中や日々の面会時にもなるべく家族との交流を多く持つ様にし信頼関係を作っていく様取り組んでいる。	運営推進会議での家族の意見や、普段の面会で把握した要望は、確実に運営に反映させ利用者の満足に繋げている。他の家族からの話も尊重し、得られた情報や意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや日々のケアの中の会話から意見を求めることでケアに繋がっている。	月一回のカンファレンスで職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。新任や若い職員とは日常のコミュニケーションをよく取ることで、会議では言いにくい事も汲み上げるよう働きかけをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に給料体制の見直しや自己評価表、個々の研修参加状況を評価し実践に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを	毎月の内部研修や個々に外部研修への参加を促しスキルアップを図る様にし評価をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な地域会議の参加や交流会、勉強会通し、情報交換を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	良く話を聞くことや体験を通し安心してもらえる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	良く話を聞くことで情報収集をし密にやり取りをすることで家族の不安、要望に応えていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いを繰り返し行い耳を傾けていくことで今必要としている事を見極めて聞けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々それぞれの立場に立って生活できる環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時での交流や状況報告や相談を通しご本人を支えていける環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な受診や外出、地域行事への参加を通し支援に努めている。	地域との交流を普段から心掛け、ホームに気軽に訪問出来るよう環境作りに取り組んでいる。家族を含め訪問者の人数や回数は多く、利用者の良い刺激となっている。他の家族や併設の高齢者住宅の利用者との馴染みの関係作りも支援して、利用者の楽しみとなっている。	車椅子利用の利用者が過半となっている現状で、馴染みの人や場所との関係継続支援での努力は敬意を表したい。今後の支援にあたり、利用者の意向の把握に努め、個別の要望に応えていける事を期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に寄り添う姿勢を持つことで利用者様との関係を保つことに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の経過をやり取りしながら必要に応じ相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	良く話を聞くことや傍に寄り添うことで思いや希望を汲み取るよう努めている。	利用者とのコミュニケーションを徹底させ、信頼関係を確立し意見や要望の把握に努めている。困難な利用者に対しては、職員は訴えを受け身ではなくよく聴き取る事を心掛け、申し送りや会議で情報共有しケアに繋げている。利用者アンケート調査でも、職員の思いや要望の理解について高く評価されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集やご本人の話を聞くことで安心できる環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースに合わせながら一人一人の出来る事を把握しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状況や家族との話し合いや情報の中でチームでの話し合いを通し介護計画に繋げている。	連絡ノートやケア記録、カンファレンス記録の情報は職員全員に共有化されており、それらの情報を基に介護計画が作成されている。家族やチームとのコミュニケーションがよく取られ、意見が正確に反映された計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやカンファレンスでの話し合いを通し情報の共有化を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事やボランティアを通し支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な通院を行い担当医との関係を築きながら支援している。	提携医療機関で定期的を受診して担当医師とは顔馴染みになっており、急変時には往診も仰げる体制が執れているので安心感が得られている。かかりつけ医での受診をしている利用者もいる。家族付き添いで受診を基本としているが、家族の都合によって職員が受診支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護職員の配置にて情報の共有や相談の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	常に家族との連絡を取ることや面会にて状況を把握することで関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃の状況報告を家族とも密にし話し合いをしながら終末期に向けた支援をしている。	入居時に「重症化した場合」の文書を用い重症化や終末期の対応についてホームの考え方を説明している。利用者・家族の希望があれば看取りに関する同意書を交わし、終末期に向けた支援を行っている。この1年間に看取りの経験をした事が管理者・職員にとって、今後のターミナルケアに向けて大きな自信になっている。今後体制づくりの整備を期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会でも周知し緊急マニュアルの掲示をすることに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施し職員の意識付けも行いながら体制を築いている。	消防署指導による避難訓練のほかにも、ホーム独自に利用者と一緒に訓練を定期的実施している。ホーム隣りにサービス付き高齢者住宅を今年新設したので、特に夜間時の避難に関して協力体制が強化できた。	万一の災害を想定して、利用者全員を無事に避難誘導できるよう訓練を重ねられるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々それぞれにあった言葉かけやプライバシーに配慮に努めている。	接遇面に力を入れており、利用者の誇りを傷付けない声掛けや言葉遣いに心掛けている。利用者に不安を与えるような大きな声を出さないよう職員全員が注意している事が場面観察時にも確認できた。トイレ誘導時の声掛けや入浴時のプライバシー確保にも充分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話を聞きながらご本人の気持ちを汲み取る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状況に合わせてながら無理強いせず出来る事を探しながら充実した日を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望や好きなものなど話を聞きその人らしさを出せる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の出来る事を引き出し一緒に行うことで張り合いを持って頂ける環境作りに努めている。	幾つかのテーブルに分かれての食事は職員が夫々間に入って、会話をしながらの楽しいひと時になるよう工夫が窺える。ホーム敷地内の菜園で収穫した食材を活かして厨房で料理されている。出来る利用者は生き生きと米とぎや洗いの・下げ膳など行なっている。イベント等の外食時には普段ホームで食さないメニューを選べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状況に合わせてながら必要ならば工夫をしながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施や必要に応じて歯科衛生士の指導も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状況を把握しながら必要に応じ排泄パターンを知ることによって失敗を減らし定期的な誘導を行い自立支援に繋げている。	排泄パターンを把握し、トイレで排泄できる支援をしており昼間のオムツ使用者はいない。夜間のオムツ交換などの技術は隣接の「訪問介護たすけあい」の職員と相談しながらケアに繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々それぞれの排泄パターンを調べ水分量などの調整など予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時のご本人の気分や状況にて無理強いないでその人にそった支援をしている。	認知症の進行と共に風呂場に行くことに興味を示さない利用者には、声掛けの方法やタイミングを見計らって入浴できるよう工夫を凝らしている。要介護度が高くなっている利用者には職員が1人または2人で入浴介助している。場面観察で新規にシャワーチェアが設けられていた。発熱などで入浴出来ない利用者には清拭で身体の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合わせてながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容の理解や主治医との相談にて見直しすることで変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の習慣的な事や個々それぞれの自分の時間を楽しむことも推進しながらその方にとっての楽しみを見いだせる様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節や天気状況にてご本人の要望に応えられるよう職員配置も考えながら支援している。	天気のいい日は庭に椅子を用意して日光浴に努めている。クルマ椅子の利用者が増えてきているが、職員が個別対応で外出支援をしていることが確認できた。利用者が外に眼を向けられるよう、クルマでの外出を計画的に実施し、変化とメリハリのある生活が送れるよう支援している。管理者はもっと戸外に出掛けられる機会を増やしたいと意欲的である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事前にお小遣いを預かっているのが本人の希望に応じ一緒に買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じ対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れながら必要に応じ音の演出や映像など配慮しながら居心地の良い空間作りに取り組んでいる。	リビング兼食堂の間は、高い天井から自然採光できるよう天窓が造られていて、全体に柔らかい明るさが印象的である。季節感を実感できるよう菊花を生けるなど居心地の良い清潔な空間に仕上がっている。利用者夫々の個性や相性を把握して坐る場所等にも配慮され、「第2の我が家の生活を目指す」の理念の実践に向けての真摯な姿勢が窺える。	利用者・家族との信頼関係を強め、コミュニケーションを更に深めるために、職員紹介の為に写真等の掲示など工夫を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置や利用者様間でのトラブルを回避できる様に日々配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のなじみのものを置くことで安心して過ごしていただける環境作りに配慮している。	今迄家庭で使用していた家具や利用者にとって思い出の強い品物を、家族と相談して持ち込んでいる。テレビを置いている利用者も数名見られ、また丹精込めて育てているシクラメンを嬉しそうに見せて話しかけられる利用者もいて、自分の部屋として安心して過ごし続けられる居室となっていることが実感できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人出来る事を引き出し日々の習慣に取り入れていくことでご本人の張り合いにも繋がって行くことで自立した生活が送れる様支援している。		